

○現状分析 (学力調査等の結果を踏まえた内容別・観点別の分析表)

2年		平均正答率		分析
		本校	都	
数学		53.2	52.9	東京都の平均正答率とほぼ等しい結果となった。観点別正答率で見ると、「技能」については2.2ポイント都を上回ったが、それ以外の「見方・考え方」が2.2ポイント、「知識・理解」が0.8ポイント下回ってしまった。今後の指導で、「知識・理解」や「技能」の分野を基盤として、活用する力を養い、「見方・考え方」の力を身に付けさせていかなければならない。特に、応用や文章問題では、演習時間を確保するほか、課題解決にいたるまでの取組みを、ステップで理解させていく必要がある。
観点別 正答率	関心・意欲			
	見方・考え方	27.7	29.9	
	技能	61.9	59.7	
	知識・理解	62.8	63.6	

3年		平均正答率			分析
		本校	都	全国	
数学		63	62	59.8	学習指導要領のすべての領域で、全国、東京都の平均正答率より上回っていたが、「関数」の領域は、他の領域の正答率に比べて低い。「技能」、「知識・理解」については、身に付いているが、「数学的な見方・考え方」については、都の平均正答率より2.1ポイント低く、問題の解決方法を説明する、記述する力を身に付けることが今後の課題である。
観点別 正答率	関心・意欲				
	見方・考え方	50.7	52.8	51	
	技能	71	66.9	63.9	
	知識・理解	77.4	72.6	71.3	

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を図るため、演習や確認の時間を増やす必要がある。 習熟度別指導で基礎コース、定着コース、発展コースに分け、それぞれの習熟度に応じて、授業内容を工夫する必要がある。 数学的な技能の不足している生徒には、補充教室を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間ドリルや、単元ごと的小テストの実施により、学習内容の定着を図る。 発展コースは、発展的な内容を多めにし、定着コースは、演習問題を多めにし、理解を深めていく。基礎コースは、演習時間を長めにし、確実な定着を図る。 分野ごとに生徒のコース希望調査をとり、成績と照らし合わせて、コースを決定する。 自分の考えを表現したり、発表したりする活動を取り入れる。 ICTを用いて、視覚的な理解を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間ドリルや単元ごと的小テストにより個別指導が必要な生徒に対して、放課後や長期休業中に補充指導を行う。 定期考査前に毎時間、ワーク、学んだことを宿題とし、単元の定着を図る。 定着・発展コースでは、授業課題が終わったら、発展的な学習(プリント)を行わせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を図るとともに、数学的な見方や考え方を深めていく必要がある。 習熟度別指導で基礎コース、定着コース、発展コースに分け、それぞれの習熟度に応じて、授業内容を工夫する必要がある。 数学的な技能の不足している生徒には、補充学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間小テストの実施により、基礎的な学習内容の定着を図る。 分野ごとに生徒のコース希望調査をとり、成績と照らし合わせて、コースを決定する。 発展コースは、発展的な内容を多めにし、定着コースは、演習問題を多めにし、理解を深めていく。基礎コースは、演習時間を長めにし、確実な定着を図る。 自分の考えを表現したり、発表したりする活動を取り入れる。 図形の分野では、ICTを活用し、具体的な理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストや定期考査の結果から、個別指導が必要な生徒に対して、放課後や長期休業中に補充指導を行う。 定期考査前に毎時間、ワーク、学んだことを宿題とし、単元の定着を高める。 数学的な見方や考え方を育成するため、自分で考える、4人組で話し合う、全体で振り返る時間を取り、意欲的に取り組ませる。 定着・発展コースでは、授業課題が終わったら、発展的な学習を行わせる。また、日常生活に関連した問題にも挑戦させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を図るとともに、学習した知識・技能を用いて、数学的な見方や考え方を深めていく時間を多めに取る必要がある。 習熟度別指導で基礎コース、定着コース、発展コースに分け、それぞれの習熟度に応じて、授業内容を工夫する必要がある。 数学的な技能の不足している生徒には、補充学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間ドリルや週1回の小テストの実施により、学習内容の定着を図る。 「関数」は、1,2年で学習した事柄を適宜振り返りながら、3年間のまとめを行う。 発展コースは、発展的な内容を多めにし、定着コースは、演習問題を多めにし、理解を深めていく。基礎コースは、演習時間を長めにし、確実な定着を図る。 問題をただ解かせるのではなく、答えに至る過程や理由について、自分の考えを表現したり、発表したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの結果から、個別指導が必要な生徒に対して、放課後や長期休業中に補充指導を行う。 定期考査前に毎時間、ワーク、学んだことを宿題とし、単元の定着を高める。 数学的な見方や考え方を育成するため、自分で考える、4人組で話し合う、全体で振り返る時間を取り、意欲的に取り組ませる。 定着・発展コースでは、授業課題が終わったら、発展的な学習(プリント)を行わせる。